

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

徳島県における肝炎医療コーディネーター養成講習会 およびスキルアップ研修会の成果と課題の抽出

研究分担者：河野豊

徳島大学 大学院医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学 特任准教授

研究協力者：立木佐知子 徳島大学 肝疾患相談室

研究要旨：徳島県における肝 Co 養成講習会およびスキルアップ研修会の変遷についてまとめた。平成 24 年度より養成講習会が、平成 29 年度よりスキルアップ研修会がそれぞれ開始された。徳島県と拠点病院との連携強化により、肝 Co 養成者は増加傾向であった。当県の特徴としては、他県及び自県の肝 Co の活動報告や、グループディスカッションを積極的にプログラムに組み込むことによって、診療現場での実際の肝 Co 活動に役立っている。一方で肝 Co が実際に活動していたのは半分程度にとどまっていたアンケート調査結果から、今後スキルアップ研修会でのグループディスカッションを含めたプログラムの強化や、肝 Co へのさらなる実態調査が必要と考えられた。

A. 研究目的

徳島県の肝癌死亡率は全国平均を下回る状況であり、肝疾患に対する対策が急務な状況である。現在徳島県では肝炎医療コーディネーター(肝 Co)養成講習会およびスキルアップ研修会をそれぞれ開催しているが、このような講習会や研修会によって育成された肝 Co がどのような役割を果たすのかを解析することは、今後の課題解決につながることを期待される。そこで本年度は、講習会や研修会が開催された当時の状況や、肝 Co の認定・更新に関わる事項および活動状況を検証することを目的とした。

B. 研究方法

徳島県および拠点病院である徳島大学肝疾患相談室主催で開催されてきた肝 Co 養成講習会およびスキルアップ研修会の内容について精査した。

(倫理面への配慮) 本研究は個人が特定されるような調査ではないため、倫理面への

配慮は行っていない。

C. 研究結果

①養成講習会

平成 24 年度より徳島県が主催していた。他県の講習会を調査した平成 27 年度と、新型コロナウイルス感染症が流行していた令和 3 年度は開催しなかった(翌令和 4 年に延期)。平成 24 年度と令和 5 年度は年 2 回の講習会が開催された。

開催日程としては、平成 24 年度は平日昼間と平日夜間の 2 時間の講習だった。平成 25 年度から令和元年度までは平日夜間の 2 時間の講習だった。令和 2 年度以降からは土日いずれかの開催で 4 時間の講習に変更した。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症が流行したため、リアルタイムとオンデマンド併用の web 開催だったが、令和 4 年度以降は現地開催となった。

平成 24~28 年度までは、徳島県が主催しており拠点病院(徳島大学)は講師の協力の

みであった。その当時は DAA 製剤が使用可能になった時期で医療従事者の肝疾患への関心増加が期待されたが、平成 28 年度の講習会受講者は 30 名と少ない状況だった。そこで平成 29 年度からは講習会開催案内の通知範囲を拡充した結果、養成者数は 110 名まで大幅に増加した。平成 30 年度からは講習会の開催に関して徳島県と拠点病院との連携が開始され、令和 2 年度以降は講習会・研修会の企画段階から拠点病院が参加協力することになった。

講習会の内容としては、当初「行政の肝炎対策の現状」「ウイルス性肝炎などの肝疾患に関する知識」「肝 Co の役割について」などであったが、令和 2 年度からは肝炎医療コーディネーターに携わる研究者の特別講演を、令和 4 年度からはグループディスカッションの時間をそれぞれ追加で設けた。

講習会で確認テストを実施したのは、web 開催となった令和 2 年度のみであった。全 20 問のテストに対して正答率 70% (14 問) 以上で認定としたが、受講者 98 名全員が合格していた (正答率 94.4%)。

令和 4 年度までの養成者数は 586 名である。

②スキルアップ研修会

平成 29 年度より拠点病院が主催の研修会が開始された。

開催日程としては、令和元年度までは現地で平日夜間の 2 時間の講習で、年 2 回の講習だった。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症が流行したため、web での開催だった。令和 3 年度では肝炎の知識や助成制度などに関してはオンデマンドで、活動報告などについてはリアルタイムでのハイブリッド web 開催を行った。コロナウイルス感染症の流行が鎮静してきた令和 4 年度からは土日いずれかの開催で 2 時間の現地開催のみに移行した。

研修会の内容としては、当初「行政の肝炎対策の変更」「他県の肝 Co の活動報告」「ウイルス性肝炎などの肝疾患に関する知識」「肝 Co の役割について」だった。平成 30 年

度からはグループディスカッションを取り入れ、翌令和元年からは徳島県の肝 Co の活動報告も併せて行われた。

③肝 Co の認定・更新

肝 Co の認定期間は研修会を受講した翌年度から起算した 2 年後の年度末としていた。肝 Co の更新要件はコーディネーターフォローアップ研修会を認定期間以内に少なくとも 1 回以上受講すれば、3 年間の認定期間の延長が認められた。

④その他

肝 Co の活動状況把握を目的として令和 5 年に徳島県がアンケート調査を実施した。470 名の肝 Co のうち 77.7% から回答を得られたが、肝 Co の活動をしていたのは 53.8% だった。

D. 考察

肝 Co 養成講習会については、開催当初は徳島県が主導して実施されていたが、平成 29, 30 年以降の拠点病院が講習会の開催や内容の計画・立案に協力開始してからは、肝 Co 養成者の増加に大きく寄与していた。時を同じくしてスキルアップ研修会は同時期からの開催であり、当初から拠点病院が大きな役割を果たしていた。この一連の流れは徳島県と拠点病院とのお互いの役割分担が明確になったことによる強い連携が生み出した結果と考えられる。

養成講習会における確認テストを実施したのは、web 開催となった令和 2 年度のみでその他の年度では実施していなかった。その一方で、初期の段階からグループディスカッションの時間を養成講習会およびスキルアップ研修会で取り入れていた。肝炎の最新知識の取得確認目的の確認テストも重要であるが、診療現場で多職種肝 Co が実際に活躍するためには、多職種でのディベート等によるグループディスカッションが効果的と考えられた。本年度のアンケート調査では、凡そ半分の肝 Co しか活動できていないことを踏まえると、今後はより一層の

スキルアップ研修会の参加を促す必要が考えられた。現在、他県での肝Co養成講習会などに研究協力者(立木佐知子)が実際に出席して、他県での先駆的な取り組みを学習している。今後は当県のスキルアップ研修会に取り入れることによって内容の強化を図る予定である。前述のごとくスキルアップ研修会等の参加が肝Coの更新要件であることから、これらの取り組みが成功すれば今後参加者の増加が期待される。また、別のアプローチとして、複数の肝Coが所属している病院施設で活動状況の実態調査を行い、活動に影響を及ぼす因子の抽出についても今後検討予定である。

E. 結論

徳島県における肝Co養成講習会およびスキルアップ研修会の変遷についてまとめた。徳島県と拠点病院との連携強化により、肝Co養成者は増加傾向であった。一方で現場での肝Coの活動は半分程度にとどまっていたことから、今後グループディスカッションを含めたスキルアップ研修会でのプログラムの強化や実態調査が必要と考えられた。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

山梨県肝疾患コーディネーター養成講習会
2023年10月5日

千葉県肝炎医療コーディネーター養成研修会
2023年12月25日

佐賀県肝炎医療コーディネーター養成研修会
2023年12月18日～2024年1月10日
(WEB受講)

茨城県肝炎医療コーディネーターステップアップ研修会
2024年1月20日

G. 研究発表

学会発表

立木佐知子;「徳島県肝炎ウイルス受託医療機関を対象とした肝炎対策に関するアンケート調査結果報告」 特別企画2(メディカルスタッフセッション) 肝炎コーディネーター・メディカルスタッフが織りなすHCV撲滅への道 第45回日本肝臓学会西部会
2023年12月8日 肝臓 64巻 suppl. (3)
A817 2023

啓発活動

啓発活動

河野豊、立木佐知子:令和5年度第1回徳島県肝炎医療コーディネーター養成講習会
2023年9月3日 主催:徳島県

立木佐知子;「他県の肝炎医療コーディネーター研修会から学んだこと ～これからの研修、活動を考える～」令和5年度第2回肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会
2023年11月26日 主催;徳島大学病院

河野豊、立木佐知子:令和5年度第2回徳島県肝炎医療コーディネーター養成講習会
2024年2月4日 主催:徳島県

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし